

令和2年度 文京区立小日向台町小学校 授業改善推進プラン

第5学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字学習の定着までに時間がかかる児童や、既習漢字の活用が不十分な児童が多く、手立てが必要である。 目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えて文章を書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。 内容を分かりやすく伝えるために、相手や目的を意識して書くための力を付ける指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テストの際に、自己採点・自己修正を行い、どの字が身に付いていないのか、何を直せばいいかを自己認知させる。あわせて、教員からも修正する指導を繰り返し、定着を図る。 書くときには、書いた文章を読ませる対象を明らかにする。起承転結や始め・中・終わりなどの構成を意識させる。冒頭部や終結部の書き方を工夫する指導をしていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 世界の主な大陸と海洋、主な国の名称と位置、我が国の位置と領土を地図や地球儀、資料などを活用して調べる学習に課題がある。 資料を読み取ったり、資料を活用したりして、自分の考えや意見をもち、学習したことをまとめる力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 名称や位置を調べるだけでなく、世界の中における我が国の国土の様子を捉え、産業に関する学習などにおいて活用できるようにする指導が大切である。 資料を適切に活用し、社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、課題を把握して選択判断する力、それを基に議論する力を養う指導が大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地球儀、統計、年表などの各種の基礎的資料の活用の仕方を指導し、繰り返し学習する。また、産業に関する学習において、各種資料を活用できるように、学習の問題を追究・解決する活動や見方・考え方を働かせ表現させる活動を設定する。 見方・考え方を働かせて、気付いたことや考察をノートに書かせる。また、社会に見られる課題を把握し、よりよい社会を考え学習する活動を設定することで日常と関連させて、情報を適切に調べまとめる力を指導する。また、自主的な調べ学習を取り入れ、まとめた事を発表する授業を展開する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算や図形などの基礎学力について個人差がある。 問題解決をする際、自分の考えを表現したり、相手の表現から理解したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導を進め、児童の理解や習熟の程度、興味・関心に合った学習の中で、定着を図る指導が大切である。 考えを伝えるには論理的であること、場面によって表現を工夫することの指導が大切であり、年間通して行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に合わせて基礎的な問題や応用問題を選び指導する。また、朝学習、ユニットの時間、家庭学習を活用し、基礎学力の定着と習熟を図る。 東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。 問題解決場面で言葉、図、式などの表現を扱い、伝え合う習慣を積み重ねる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 根拠のある予想や仮説を発想することに課題がある。 問題についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想させることが大切である。 条件を制御して観察・実験方法を論理的に考えさせることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を想起させることで、根拠のある予想や仮説を発想することができるようにする。 予想や仮説を基に、変える条件、変えない条件を整理させることで、解決方法を発想できるようにする。

音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱表現に対する意欲が高いが、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うことに課題がある。 ・鑑賞に関しては、音楽を形づくっている要素の表れ方に関心のある児童が多いが、楽曲から感じ取ったことを言葉で表現する力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が歌い方を試す過程を大切にしながら、自分の歌声の持ち味を生かすとともに、曲想に合った歌い方を主体的に探っていくようにすることが求められる。 ・曲の雰囲気や表情とその移り変わりを感じ取って聴き、感じ取ったことを言葉で表現する経験を重ねることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴にふさわしい表現について考える活動を十分に行い、様々な歌い方や表現の工夫を試したり、歌声を聴き合う活動を取り入れたりすることで、響きのある歌声への意識を高める。 ・曲の雰囲気や表情とその移り変わりなど、感じ取ったことを言葉にする活動を多く取り入れる。個人で考える時間や友達と話し合う時間を十分に確保し、考えを共有することで、感じ取ったことを言葉で表現する際には多様な表現があることに気付かせる。
図 工	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しくのびのびと活動することができている。全員が作業に集中し、落ち着いた学習態度で授業に取り組むことや、個に応じた支援に課題のある児童が見られる。 ・材料の特徴や構成の美しさなどを考えながら、表し方を構想し、工夫して表すことに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図工室のルール of 意義を理解し落ち着いて制作に集中できる環境づくりが必要である。 ・様々な作品から材料の特徴や構成の美しさを感じ取り、自身の制作に生かせる経験を積み重ねる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年としての取り組みを意識できるよう、日頃の言葉かけや図工室のルールの意義を繰り返し確認する。細かい作業に丁寧に取り組む意識や、描画材を適切に扱う技能も身に付けるようにする。 ・美術書やICT機器を活用し様々な作品に触れたり、話し合ったりする機会を通し材料の特徴、構成の美しさ、用途などを考える内容にする。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ・関心を持ち前向きに取り組む児童が多いが、経験の違いもあって裁縫では技能面で個人差が見られる。 ・家庭科は衣食住や環境、生活文化など、様々な視点から生活を見直し自分の生活をよりよく変えていくことが大切だが、その意識が十分とはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能を身に付けられる実習の場を大切に、一人一人が主体的に取り組む、達成感を味わいながら技能が向上できるようにする。 ・衣食住に関する基本的な知識や技能を身に付け、豊かで楽しい家庭生活を送ろうとする態度を育てることを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・達成感や充実感が味わえるようなめあてや教材を工夫し、一人一人が主体的に実習を進めていくために、手順を示す絵やカード、作品の見本などの手だてを工夫する。 ・自分の生活を振り返る時間を大切に、自分なりの課題を見つけて解決していくことを意識させたり、互いのよさを感じ合いながら全体の力を高めていけるように工夫したりする。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを明確にもって活動することに課題がある。 ・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性(楽しさ)を十分に味わえない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適しためあてをもたせ、そのめあてに向けて学び合いながら活動を進めていく指導が必要である。 ・指導者が個々の児童の課題を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達同士の教え合いを活発にさせることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に児童が運動の特性・教材の特性を知った上で、学びの内容を設定する。 ・学習カードを活用し、その日のめあてを振り返り、記録をして残すことで、児童の思考を明確にしていく。そして、次の自身の目標設定につなげることができるようにする。 ・運動のもつ楽しさを味わえるように、児童が場やルールを話し合う場面を取り入れる。 ・児童同士の教え合いの場を計画的に設け、互いに見合いながら技能を高め合えるようにする。

<p>総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何のために活動するのか、課題がはっきりしないまま学習が進んでしまう児童への手立てが課題である。 ・体験したことを日常生活に生かすまでには至っていないことが多いことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然体験や社会体験、観察・実験、見学や調査など既習の学習を基に、実生活や実社会と結び付けて学習課題を見いだすことが大切である。 ・体験したことを自らの生活に結び付けられるようにして、学んだことを日常に生かすことが大切である 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習する事柄が児童の興味・関心が高まるものであるか、また、児童が自ら課題をもち、課題を解決するのにふさわしい探究課題であるか検討する。 ・学習活動を設定する際に、実生活や実社会との結びつきを考えたり、今までに体験したことや経験したことを振り返ったりしながら自ら問いを見いだせるよう指導の工夫をする。 ・体験したこと日常生活に生かせるよう、学んだことを意図的に結びつけた学習を進めていく。その際、年間指導計画と各教科、総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習になるよう計画を立てる。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的にコミュニケーションをとる態度に課題がある。 ・読むことと書くことの基礎的な技能習得が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者に配慮し、距離を確保しながら、主体的にコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 ・本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 ・音声で十分に慣れ親しみ、簡単な語句等の表現の意味が分かり、書き写せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を用いた言語活動を通して、体験的に楽しみながらコミュニケーションを図れるようにする。単元の中で段階的にめあてを設定し、歌やチャンツ、アクティビティの中で動作や交流等を取り入れて行う。学習のめあてや対話のポイント等の振り返りを行い、日常や次時への意欲に活かす。 ・対話や発表の機会を取り入れる。また、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定してアクティビティ等を行う。 ・簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読み、語順を意識して書き写す活動を取り入れる。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について、他者の考えを受け止めながら、自分の考えを深めることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値について自分事として考えたり、他者の考えを受け止めたりすることで、自己の特徴を知り、深く見つめられるようにすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の価値観を揺さぶる発問を考えたり、ワークシートを活用して児童の思考を明確にしたり、表現できるようにする。 ・ペアや小グループでの意見交流をし、自分の考えを振り返る場をもつことで、生き方についての考えを広めたり深めたりできるようにする。